

## 令和4年度の主な事業報告

社会福祉法人 ふじの郷

### ●法人全体

#### ①新型コロナウイルス対策と法人内各事業所の継続実施

昨年度はさつき学園でクラスターが起き、利用者・ご家族に多大なご心配とご迷惑をおかけしましたが、今年度は各事業所の努力で感染者は出たものの事業休止はなく、継続運営できた。クラスターの経験を多くの他施設や関係者の教訓としていただく目的で静岡県社協が取り組んだ啓発ビデオの作成に協力した。

#### ②地域支援プロジェクト第2期 増改修工事女子棟の完成と男子棟PJ会議の推進

令和4年度末終了予定がコロナ禍の対応もあり、令和5年度初めまで工事がかかり、女子棟の増改修を終えた。さつき学園の建物の基本構造は鉄筋コンクリートの耐火構造で、その増築は建築許可等の関係で制約があり、増築の結合部での課題はあったが、関係者の努力で実現できた。一方男子棟の増改修は、国・県の補助金申請が条件とれているためプロジェクト会議を重ね、本来なら申請の対象にならない本工事を特例として静岡県に認めていただき計画を煮詰めている。増改修に伴う駐車場の代替地として隣接の山林の買取を非常に安価で実施できた。その代替地の山林の伐採も小山緑志会に安価で実施してもらった。

#### ③職員の体制強化と職員の資質の向上

コロナ禍での対面研修の制約や外部研修の縮小など様々なハードルがありつつも、岡田先生の毎月の回診や自閉症 E サービスの研修。新卒職員の法人全体での連携をする中で、の新人教育など、工夫の見られた1年であった。

#### ④今後の課題

- ・人材の確保…グループホームの世話人やさつき学園の支援員(常勤・非常勤)の確保が困難になっている。定年退職予定者もいる中で、広報紙の活用やHP・SNSなどを積極的に活用するなど。
- ・提案活動の開始と定着…今年度当初から計画していた提案活動が未実施のまま来ている。職場の活性化を図る目的で定着させていきたい
- ・さつき学園の高齢化対策(家族の高齢化も含む)…高齢化に向かいつある利用者さんの生活の見直しや対策・さつき学園においては家族会の運営に関する変化への対応など過渡期に来ている課題に向き合っていく
- ・コロナ禍の影響もあり、法人全体の経常収支が厳しい決算となった。特にさつき学園の収支バランスが大きく崩れてきている。コロナの影響はより入所施設に重くのしかかってきている。法人は職員の頑張りに対し処遇の改善で応えてきていることも関係している。令和5年度はさつき学園の利用者増や生活介護利用者増を図る必要に迫られている。

## ●さつき学園

### ①感染症対策の徹底と生活の質の向上を両立させる事業運営を行っていく

令和4年度も新型コロナウイルス感染症への対応が必要な1年であった。さつき学園ではBCP（事業継続計画）により国評価レベル別行動基準を指針としながら、さつき学園としての行動基準を決定した。行動基準の指針により、規模の縮小はあるものの令和4年度は外出やさつき学園まつり、一泊旅行、外泊などを行った。多数が集まり飲食を伴う新年会は中止とした。利用者さんへマスクの着用、手指消毒などの基本的な感染予防対策がご自身でとれるような支援と配慮を行うことで感染のリスクを下げる事が出来た。11月に利用者さん1名が罹患された。感染経路としては職員からの感染と思われる。絆棟にて静養していただいた中、支援を行った職員1名が罹患してしまったが、他の利用者さんに感染を拡げずに終息を迎える事が出来た。初動対応をスムーズに適切に行う事ができた事は、昨年度のクラスターの経験が生かされた。

### ②各棟にチーム制を導入し、チームによる個々の利用者へのアプローチ体制を確立していき合わせて専門性を高める研修を行っていく

支援の体制について、今後のユニット化を見据え、各棟にチーム制を導入し、支援課長（兼サービス管理責任者）、統括主任（兼B棟主任）、A棟主任、通所主任の体制に、A棟リーダー2名（1名は女子棟リーダーを兼務）、B棟リーダー2名、通所リーダー1名を置き、各チームがこれまでよりも強い連携を取り支援を行った。チームでの報連相の強化により、利用者さんへの支援の質の向上、人的ミスなどによる苦情の減少、事故の減少やヒヤリハットを利用した改善対策としてチーム制が機能した。また、困難ケースに対しても現場のチームが中心になり支援の組み立て・周知を行う為、当事者意識が高まった。

### ③個室化に向けた増改修プロジェクトの具体的な作業を行っていく

ふじの郷 第2期事業である大規模改修プロジェクト会議には、支援員、医務・事務などが参加し利用者支援を想定した意見を本会議に提出してきた。10月にはプロジェクト会議の現状報告を家族会にて行った。しかし物価や助成金など様々な要素で再考が必要な事が起きていることもあり、令和5年2月にも家族会にて説明を行った。先行した女子棟の増改修工事は令和4年の6月に終了し、すでに個室での生活が始まっている。机を置いたり、カーペットを用意したり、テレビを個人用においたり生活の様式が変わってきている。本人への支援も個人に合ったスケジュール表の提示などに取り組んでいる。

### ④女子棟改修工事後、地域のニーズに対し短期入所を受け入れていく

渡り廊下の改修は終わっていない面があるが、主任会や職員会議にて短期入所の受け入れに関しては職員間でも今年度の課題として意識を共有していた。実績としてはコロナ禍の影響により年間で1名のみの受け入れとなったが、令和5年度以降も継続して取り組んでいく。

## ●グループホームけやき坂

### ①週末の生活の充実として外部サービスの検討

週末に非常勤職員1名を配置でき、グループホームでの生活が充実してきている。利用者が自室やけやき坂で過ごせるようになり、それに合わせて目的を持った買い物やおやつ作り、自室や建物の周りの清掃等を取入れた。少しずつ生活に変化が出来始めて充実した週末になっている。外部サービスの利用については、今のところ進んでいない。

### ②短期入所について

短期入所の見直しは進んでいない。

コロナの影響もあり、具体的な話し合いができていない。

### ③利用者の生活の振返り

けやき内では振り返りについて話ができている。また、支援が困難な2名のケースについてアセスメントを取り直し支援を振り返り、支援に有効な手段を見つけていく。情報の共有、支援の統一はさつき学園の支援者とも良く話し合いをしている。また他機関とも協力して良い支援方法を検討している。

その他10名の方の生活は安定してきている。

### ④職員の安定確保

新規採用も含めて、さつき学園とけやき坂で職員配置や職員の働き方について話をし、兼務の調整での経営改善を検討している。

### ⑤その他

倉庫を購入したので、廊下や短期部屋にある日常生活品の保管場所にする。

週末利用者が増えてもいいように準備しておく。

## ●神山さつきの森

### ①個々に合わせた支援を実施

開所4年目となり契約者は26名。個別サポートが必要な子供は14名。

今年度は個別療育の対象者を7名に拡大し指導を行った。動作模倣やカードの認識から文字の理解、数字概念、質問に答えるなど、人を意識した高度なコミュニケーションがとれるようになる、新しいスキルを獲得するなど、個別療育の成果や手ごたえを感じている。利用人数も増えたことで毎回の実施は難しいこともあった。

利用児童生徒の幅(知的レベル、年齢)が広いのである程度のレベルに分けた活動グループを作り、時間帯を分けて、公園や外出、園内の広場、絆棟などで活動を行った。第一土曜日の支援学級、通常学級在籍の6年生～高校生のグループ活動は3年目を迎え、公共交通機関を使って熱海旅行の計画実施等行うことができた。参加する子供たちの親和性も高まり、安心して参加し話せる居場所となってきた。12月に実施した保護者交流会では、成人当事者の話を聞く機会を設け、参加者からは高評価を頂いた。今後も継続して保護者の交流機会を設け、保護者の障害理解や適切な関りを知る機会

を提供したい

#### ②家庭、学校、地域の支援機関との連携

アスタ（静岡県東部発達障害者支援センター）で PECS（絵カード交換コミュニケーションシステム）による言語指導を受けている利用児に対し方デイでも PECS の環境を整え、指導を行った。今後 PECS ユーザーは増える見込み。家庭、学校、発達障害者支援センターとの連携がさらに必要となる

行動障害の激しい1名について昨年度に引き続き強度行動障害児支援加算を算定し1か月の支援記録をまとめ、行政、保護者、御殿場特別支援学校と共有。学校の様子を見学させていただくなど情報の共有に努めた。その結果、定時排泄（オムツ着用）ができるようになり、外出も楽しめるようになった。表出言語も増え、絵本の音読ができるようになり、活動が広がった。方デイでは情緒的な安定がみられるようになった一方、家庭での問題（大声で叫ぶ、ipad、DVD デッキを壊す）は継続している

#### ③新型コロナによる事業運営への影響

本人の感染・発熱だけでなく、家族に発熱者がいた場合も学校は休みとなり利用がキャンセルとなった為、今年度も利用者の欠席が常時1～3名あった。

#### ④職員研修の実施

自閉症 e サービス主催の「自閉症支援の基本講座」やオンライン研修にスタッフが多数参加し、自閉症の特性理解と、子供達が抱える困難さをより深く理解し、日ごろの支援の振り返りや見直しを行うことができた。

PECS のレベル1 ワークショップを2名が受講。言語でのコミュニケーションの獲得が難しい子供たちに対し、PECS の指導は必須となっていく見込み。今後も受講者を増やし、PECS の指導ができる体制を整えていきたい

#### ⑤虐待防止・権利擁護に関すること

法人の会議出席、広報物の作成などによる業務量の増加、より複雑化・個別化した日々の支援の準備に追われることが多くなり、職員 MT を毎月開催することができなかった。日々の指導だけでなく、自己評価を繰り返し行うことは子供の人権を見直すきっかけとなり虐待防止につながるため、来年度は職員 MT での周知やチェックリストによる自己評価などを定期的に行っていきたい

#### ⑥色々な場面を想定した避難訓練を実施

今年度は一定の活動時間帯の訓練に加えて、活動場所がバラバラの場合の避難場所への参集、防災ビデオでの災害時の行動の学習など、より実践的で多様な方法での訓練を行うことができた。来年度は災害伝言ダイヤルを用いた保護者への連絡なども訓練の中で行っていきたい

## ●ふじあざみ

### ①支援について

- ・今年度も教材製作時間を設け、できた教材の用途やねらいを発表しあった。
- ・常に利用者の状況を観察し、刺激を受けにくい方法、課題や作業がしやすい方法、休憩時間やその取り方、混乱しないで安心安定して過ごせるように、空間や時間の構造化と見直しをしている。
- ・今年度はアスタの協力を得てコンサルテーションを実施。アドバイスに基づいた支援をしている。
- ・隙間時間を失くすという課題の設定ではなく脳の働きを狙った課題の使い方、刺激を失くすということよりも刺激に堪えられる力を養うことの必要性を感じている。社会性や耐性の獲得という問題もあり、方向性をどうしていくか鋭意模索中。

### ②行事について

- ・今までの選択外出を個別外出に名称も内容も変更。利用者個人にどのような外出が意味あるものか担当職員が中心になって考え、保護者の要望も聞きながら計画している。コロナが落ち着くのを願い令和5年度には実施すべく準備中。

### ③各利用者担当職員について

- ・常勤職員に加え非常勤も本人希望で担当を持てるよう変更。担当者の役割は、I)担当する利用者に関する問題提起と支援内容の提案、II)モニタリングへの出席の2点に絞った。モニタリングもサビ管だけでなく、担当若しくは同じユニットの職員が参加するようにした。

### ④畑作業について

- ・各ユニットから職員1名を畑担当職員として選出し、月に1回程度ファームの草刈りや除草剤散布を行っている。利用者は個別外出の中で収穫したり草取りをしたりしている。また、収穫時期にはユニット単位で収穫計画を立てて楽しんでいる。
- ・毎月第二月曜日をあざみファームの日と定め保護者に草取りや苗植え等の協力をいただいている。

### ⑤職員研修について

- ・第一金曜日を職員研修の日と定め、職員の資質向上に努めている。
- ・昨年度は自閉症eサービスのグループ研修に参加したが、今年度は経験年数に応じてeサービスの各種研修から選択して受講する方法をとった。
- ・アスタのコンサルテーションを6月から開始し。個別ケースが2件、グループ研修をつぼみユニットにして、報告、検討、課題、実践、報告のサイクルで実施中。

### ⑥強度行動障害者支援者養成研修について

- ・強度行動障害基礎研修を1名、実務者研修を2名が受講。これにより各ユニットの強度行動障害者研修の受講者を2～3名配置することができた。

### ⑦職員体制、職員配置について

- ・今年度は主任1人からユニットリーダー3人にして体制を強化した。それに事務主任、サビ管、施設長を加えた6人で月2回リーダー会議を開き諸課題の検討を行った。検討結果は職員会議で報告し審議、確認した。
- ・昨年度はコロナ禍により2人の利用者が殆ど休んだため、年間利用者数は25.9人。4月に提出する体制届では職員数はそのままでも1.7対1の人員配置体制加算1での申請とした。ただ、看護師と7時間パート職員が退職したことで8月は一時的に2対1での報酬費請求となった。しかし、その後の職員採用で人員配置体制加算1に戻すことができた。

#### ⑧苦情解決、虐待防止について

- ・月2回行われるリーダー会議にて保護者からの苦情や要望や相談について毎回検討。併せて身体拘束の廃止に向けた検討し、これらの内容や回答、対応については職員会議で報告し全体で確認をしている。
- ・10月には権利擁護啓発講座を、11月には権利擁護研修を受講し、職員会議で報告して虐待に関する研修を積んでいる。
- ・虐待防止セルフチェックを実施。

#### ⑨コロナ対応について

- ・令和4年3月から4月に掛けて利用者6名と職員1名の陽性者、8月には利用者3名と職員1名の陽性者、10月には職員1名の陽性者を出した。いずれの場合も陽性者が属するユニットを閉鎖した。自宅待機中は在宅支援に切り替え、感染者・陽性者は出ているが、ふじあざみ全体としては事業継続することができた。